

第5回阪南みらい会議 会議要旨

○日 時：平成22年3月30日（火）

19:00～21:00

○場 所：市役所3階 全員協議会室

○出席者

委 員 13名（欠席者8名）
事 務 局 政策推進課4名、都市整備課1名
パシフィックコンサルタンツ（株）1名

＊アドバイザー・近畿大学 久教授は、急遽の会議により欠席。

（1）委員の想いについて

（主な意見）

- ・阪南市全体を見て、魅力のある阪南市、人の集まる阪南市を考え、財政を豊かにしないと、活力も色々なサポートもできない。阪南市への企業誘致を、市役所も私たちも含めて、もう少し積極的に取り組んではどうか。
- ・尾崎駅はあるが阪南市駅がないと考えると、それだけでも知名度が低いのかなとも思える。せっかく海とか自然に恵まれた阪南市なので、まちの人みんなが、より一層きれいにするという気持ちになるといったように、プラス面をもっとプラスにできないか。
- ・今さら農業、漁業を進めていくこともできないので、大阪で働く人たちのベッドタウンとして生き延びるしかない考える。
- ・企業の誘致も大事だが、企業育成など、市内にある企業が他に移らない方策が必要ではないか。
- ・財政面、病院、観光、湾岸エリア等の自然など、広域連携で進めることが重要であり、情報を集中させて展開させるための拠点が必要ではないか。
- ・まちづくりは人づくりであり、人が財産となるまちになれば良いのではないか。阪南市にはよく見ると、自然の砂浜や縄文遺跡、信長街道といった歴史的遺産など素晴らしいものがあり、これらに価値観をもてるまち、市民になれるかどうか、人材をいかに育て合うことができるかというのが大事である。人の絆ができれば、今ある資源が

最大限に活かしたまちづくりができるのではないかな。

- ・外国人など関西国際空港からのお客さんが、もっと阪南市まで来ていただけるようにすべきではないかな。
- ・市内に多くある緑地、自然の海岸が、十分に活用されていない。市民が憩える場所、市外からも人が寄れるような場所にしていく必要があるのではないかな。
- ・貝掛からの夕日が非常にきれいだったので、海の駅を貝掛周辺に作ってはどうか。
- ・阪南学の資格選定テストのように、地元のことを市民がもっと知って利用してもらう方法を考えてはどうか。
- ・コミュニティーバスは市民の足になっており、足の確保という点から、1回100円と言う安い運賃を上げるなど、市の負担をこれ以上増やさず、南海バスと一緒にした交通網の整備ということができないかな。交通が便利だと言えるまちにしていきたい。
- ・自治会ごとにある住民センターは地域の貴重な財産であり、コミュニティーカフェにするなど管理運営を自治会に全面的に任せ、使えるところは使って、公民館と住民センターを含めた地域での社会教育活動を旺盛にしていくことが必要ではないかな。
- ・使われていない畑等を借り上げて家庭菜園をやりたい方に貸し出し、地域でフリーマーケットもしくは住民センター等を活用して作物を売り出すというようなことを、まずは地域でやってみて、地産地消を進めていくということが必要ではないかな。
- ・図書館では、市の財政が厳しく、図書購入も難しくなっているなか、図書を市民に寄贈してもらい、宅配制度や市民に読書、子どもたちにもいい本を読んでもらうような制度も考えてはどうか。
- ・単年度の収支をみると、人件費率は増えており、大阪府という良い手本があり、歳入歳出を見直し、財政赤字を直してもらおうのが先決と考える。
- ・みらい会議で、学校・医療・財政の問題などを部会として出したら良い。
- ・阪南市のいいところとして、人と人のつながりがあり、知恵とか工夫、そういった部分で支えられるものもある。さらに大事なのが、ヒューマンウェアということで、人を育てていくというのは一番大事にしないといけない。
- ・市民参画や市民協働において、一般論として行政が市民の声を聞きましたという形だけをつくり、財政難だから行政の事業を丸投げするためにNPO等を育てるという構図はどうか。ボランティアや地域活動は、自発的な活動であり、その活動が成熟して結果的に行政の事業の委託を受ける形が望ましいのではないかな。
- ・昔の要求型の市民運動のためか、行政から地域に出ていくとか、市民の声を聞くということに臆病になっていると感じることがある。例えば、豊中市では地域の活動に向く研修をされているように、行政の地域化ということで、行政が地域に出ていけるような取り組みもすべき。
- ・民協において、団体同士が気軽につながることで、地域の活動の可能性はもっと広がっていくと考える。さらに、例えば、中高年の人の料理教室を福祉分野と公民館

の連携でしているように、分野領域を越えて活動がつながれば、もっと効率的に活動ができるのではないか。

- ・ 阪南市の実態や活動がわからないことには自分の想いも出てこないと考える。
- ・ 高齢化に向けた色々なことを考えていくのが重要である。
- ・ 市民憲章の精神は、表現は変わっても、いつまで経っても変わらないと思う。
- ・ 私どもの地域では、世帯あたり月 150 円という少ない会費でやりくりして、活動をやっている。
- ・ 病院改革プランでは入院患者 115 人が損益分岐点で、21 年度に達成して、22 年度は 135 人で利益を出すというようなプランだが、現状も入院患者 75 人前後で毎月 1 億円ぐらいの赤字を出している状態である。
- ・ 自分たちの思いで色々な分野で活動されているが、横のつながりがないなど、なかなか実現しないというのが現状であると考えている。
- ・ 総合計画で阪南市の将来を書くのは専門的な人に任せ、行政と議会と市民が協働する柱となり、市の色々な事業を監視・修正するような組織や仕組みを設ける必要がある。
- ・ 議会や行政ももっと住民の側に入り、市民も行政や議会側に踏み入るような場を設けるべきではないか。
- ・ 阪南市の憲法である自治基本条例を前提にして総合計画がつくられるということを念頭において色々な活動を統括すべき。
- ・ バス停にベンチを作ること、穴があれば塞ぐことや美化活動など、地域全体で活動するほうがよい。そのために、活動の場を設けて地域のコミュニケーション図るべき。
- ・ 人口 6 万人の阪南市で市立病院が必要なのかどうか、周辺都市にある民間病院を利用すればよく、もう 1 度検討する余地があると考えている。
- ・ 関西国際空港の周辺には魚が多いと聞くので、漁業の振興を図ってはどうか。
- ・ 関西国際空港の埋め立て時に造られた、桃の木台から土砂を運ぶトンネルを利用し、きのこ類を栽培して阪南ブランドにしてはどうか。
- ・ 自治会同士の情報交換を定期的にすることは、まちを活性化するための基本になる。
- ・ 自治会活動が地域によってはなかなか上手くいかないなかで、地域には退職者が多くいて非常に活発に動いている。色々な役割を与えれば結構動いてもらえる。
- ・ みらい会議として財政は避けて通れないことで、提言をするととなると、勉強しないとイケない。

(2) 次回の日程について

- ・ 同じ曜日がどうしても都合が悪い人が数名いることも考えて、4 月の会議については、8 日（木）、21 日（水）、30 日（金）とする。

(3) 今後の会議の形式、手法について

- ・財政が厳しいのはどこも同じであり、財政のことはあまり議論せずに、いかに少ないお金でも自分たちで阪南市をより住みよい状態できるかの知恵を出す方向でいくべき。
- ・どのような阪南市にするのかを全体会議で話して、テーマ別にグループ分けして検討するという進め方かどうか。
- ・委員が話す機会を多くするため、会議に出席している人数に応じて班に分けてはどうか。
- ・自由な意見を出し合うために、班を分けても、テーマを決めずにフリートークにしてはどうか。
- ・班に分けて、話す機会を多くして、テーマが絞れればさらに分けるなど、徐々に議論を深めていけばどうか。
- ・フリートークで出た意見を付箋に貼ってまとめていくというのはどうか。

【まとめ】

- ・次回以降、出席人数に応じて班に分けるなど、テーマを設けずに全ての人が柔軟に発言する機会が増えるような形にする。
- ・進行や記録は、2グループであれば、司会が2人ずつだから、司会がそれぞれに入るということも考えられる。

（４）会議の公開について

- ・次回以降は、会議を公開して傍聴を認めることにする。事務局にて会議開催予定をホームページでお知らせし、会議録も公開する。